

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 穴見 大地

2017年2月26日（日）から3月10日（金）の13日間、オーストラリアのキングスクリフにて語学研修に行きました。

## 1. 渡航前準備

渡航前に留学に関しての前準備がありました。渡航前準備として、自分の目標を明確にするために、行ったときに何をするか、それをするために今何をすればいいのかなど、留学の目的を明確にするワークショップに参加しました。また自分の足りないところがわかるように、事前にアンケートに答えて数値化するなど、留学に行ったときに何をやるか何をやるべきかをしっかりと決めていきました。

## 2. 語学学校

オーストラリアのキングスクリフにある TAFE の Kings cliff 校に行きました。英語の授業と薬学の授業がありました。どちらの授業も大阪薬科大学生8人での授業でした。英語の授業ではオーストラリアの地名、動物などオーストラリアのことについて学びました。その際に単語、英語の文法など様々なことを学びました。

オーストラリアには独特な訛りがありますが、先生はイギリス人だったので訛りではなく、標準的な発音で英語を学ぶことができました。また自分たちのレベルに合わせた授業だったので、わかりやすかったです。またホームステイ先のホストファミリーと喋れるように、いつもの宿題や、授業の内容は質問をすることが多くありました。毎日のコミュニケーションをとらないと宿題が出来ないので、英語を積極的に喋れるいい環境だと思いました。またオーストラリアの人は、いきなり話しかけても積極的に話を聞いてくれるので、語学学校でも通りすがりの人とは挨拶することが多くありました。

次に薬学の授業ですが、主にオーストラリアの薬の分類、薬局について学びました。オーストラリアでは日本のように1～10までの数字で薬の危険度が分類されているなど、日本で勉強するよりも早く勉強することができました。また普通に観光に行ってもできない薬局見学をすることができました。薬局の内部を見ることができ、日本とオーストラリアの違いを多く知ることができました。またオーストラリアでの薬局の役割は大きく、オーストラリアの薬剤師は血圧を測ることができるなど、薬局で病気を未然に防ぐ意識が高いと思いました。あまり日本では見かけない、患者の悩みを個別に

聞けるようなブースもあり、薬剤師も積極的に患者と関わっていくことができていると思いました。また薬局には計数調剤などの作業を行う、薬剤師以外の訓練を受けている職業の人たちがいることで、薬剤師が違う仕事ができるような工夫もされていました。



写真1. 学校

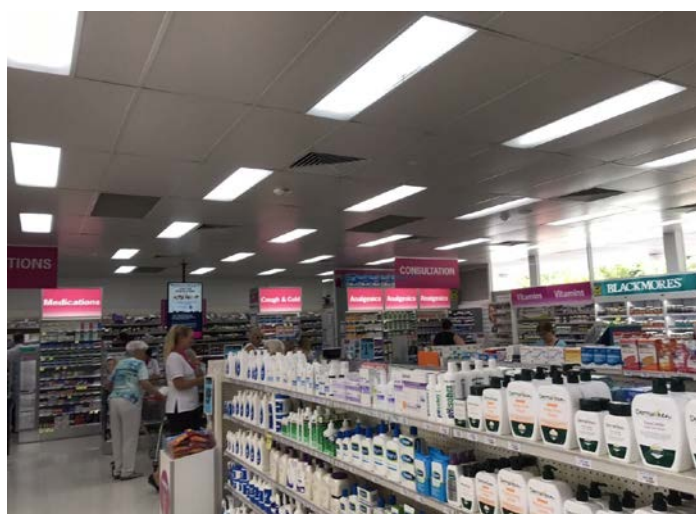


写真2. オーストラリアの薬局

### 3. ホームステイ

私がホームステイした所は、オーストラリアで英語を教えている先生のお家で、日本にも来たことがあるような家庭だったので、あまり違和感なく過ごすことができました。またオーストラリアでは沿岸部に人が多く住んでいるので、毎日のようにビーチに行きました。多くの人がビーチで泳いだり散歩したりしており、とても健康的であると思いました。私がオーストラリアに行った時は夏だったので泳ぐこともできました。

サーフィンなどウォータースポーツが盛んで、普段の格好はビーチサンダルに半袖でした。ビーチはとても綺麗で、日本ではあまり見られないような自然が多く、空気がすんだところであると思いました。休日には綺麗な灯台があるバイロンベイに連れて行って、自然が見所である国だと思いました。



写真3. ホームステイ先のビーチ



写真4. バイロンベイの灯台

#### 4. 観光

週末には動物園に行きました。オーストラリアの動物園はとても広く、1日かけて回る感じでした。オーストラリアの気候は動物にも暑いようで、動物たちは木陰で休んでいました。またオーストラリアならではの動物も多く、カンガルーやコアラなど色々な動物を見ることができました。コアラに関しては抱っこして写真を撮ったりもしました。またショーが数多くあり、私はヘビのショーとクロコダイルのショーを見に行きました。ホームステイ先や授業では自分たちに合わせて喋ってくれますが、ショーでは日常で話している

スピードで話すので、あまり聞き取れませんでした。しかし、そのぐらいのスピードが日常で使う言葉のスピードなのだと知ることができて、とても良かったです。自分のリスニングレベルに合わせた英語も大事だと思いますが、英語を使っている人にも配慮してもっと速く、正確に話せるようになりたいと思いました。



写真5. カンガルー

## 5.まとめ

語学研修に行けたことはとてもいい経験になったと思います。日本では日本語があれば会話に困ることはないですが、英語圏では英語を話せなければしたい事さえ伝える事が出来ません。また論文など世界に発信されるものは英語であると思うので、もっと勉強をしてもう一度海外へ行きたいと思います。